



## 令和6年頭のごあいさつ

塾頭 高橋 光雄

明けましておめでとございます。

塾生、塾友はじめ皆さまにおかれましては、新たな清々しいお気持ちで令和6年を迎えられたことと存じます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大がやつと下火になり、5月には季節性インフルエンザと同じ扱いとなりなりました。それに伴い、私たちの日常生活も回復に向かって徐々に動き出しました。他方、ロシアによるウクライナへの侵略戦争は続き、エネルギー、食糧危機が顕在化するとともに、諸物価の高騰を招いています。また、様々な分野における安全保障の見直しが喫緊の課題となっており、中東ではガザ地区を支配しているハマスによるイスラエル民間人への新たな攻撃と虐殺、拉致があり、イスラエル軍の反撃続いています。

一方、地殻の変動や火山活動による自然災害、温暖化による豪雨や砂漠化など、地球規模の変化が人類の生存基盤を危うくしているようにも見えます。改めて、新年が穏やかで平和な年になりますようにと、心の底から願わずにはおられません。

塾活動に目を転じますと、12月には、新型コロナウイルス感染症拡大で中断していた「櫻井よしこ先生講演会」を4年振りに開催することができました。今回で17回目になるこの講演会は、白河市・

西郷村などの後援を得て、(公財)立教志塾を含む10団体で構成する実行委員会が主催して行ってきたものです。立教志塾は、「人づくりを目的とする学習と鍛錬の場であると同時に交わりの場であり、よき師よき友を持つことの幸せを味わう所でもあります」(渡辺薫初代理事長)というのが存在理由ですから、他団体とも一緒になって汗を流し交わりを深め、お互いによき師よき友を持つことの幸せを味わっていきたくらいと願い、一層諸団体との絆を強くしていきたいと考えています。

また、6年は塾役員が先頭に立って、これまで以上に塾生・塾友とともに塾会員の拡大に力を注ぎたいと思います。世の中の変化が激しくかつ複雑になり、心が折れる若い人たちが増えていると報じられている一方、ビジネスの世界では企業経営の柱として、「well being」(心身ともに健康で幸せを感じられ、社会的にも満足できる職場環境や制度づくり)が叫ばれるようになっていきます。従業員やお客様を会社資産と考えて大切にしてきた日本式経営の再評価なのでしょう。

現役世代方々は、家庭は勿論、仕事や関連する経済団体、地域団体、趣味の団体などに帰属しながら、多様な日々を送っていると思います。塾は若い人たちのために「to being」を省みて考える場を提供し、様々な研修機会も設けています。また、年配の皆さまには、知的好奇心を刺激し、一人ひとりが矜持を保ち続けながら、ほっとできる場であり続けたいと考えています。

「well being」を実現できる場として塾に集い、よき師よき友を持つことの幸せを感じられるよう努めてまいります。